

図書・資料室だより

6月23日～29日の一週間は、『男女共同参画週間』です
～令和4年度キャッチフレーズ～
「あなたらしい」を築く、「あたらしい」社会へ



『こんな世の中で生きていく
しかないなら』
りゅうちえる // 著
朝日新聞出版 2021年

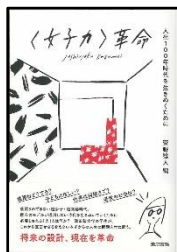
幸せのかたちは人それぞれ。お互いの「好き」や「大切にしているもの」を認めて尊重する。この生きづらい世の中で少しでも幸せを感じて生きていけるきっかけになったら、と個性的なキャラクターで注目され、結婚し一児の父となったりりゅうちえるが今思うことを綴ります。



『彼女の名前は』
チョ・ナムジュ // 著
小山内園子 / すみ // 訳
筑摩書房 2020年

60人余りの女性へのインタビューを元に書かれた、暮らしの中で感じる不条理に声をあげ、自分だけでなく「次の人たち」のために立ち上がる女性たちの胸を打つ28編の物語です。言うてはいけないことを言わない人で終わらず、言うべきことを言える人になりたいと著者は言います。

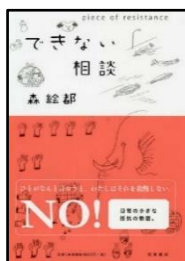
『〈女子力〉革命
人生100年時代を生きぬくために』
萱野稔人 // 編
東京書籍 2018年



人生100年時代という超高齢化社会の中、女性自身が生き抜いていくのに必要な力とはどのようなものか。この現実と直面せざるをえない津田塾大のゼミ生たちが考察し、問題を提起します。



『終わらない「アグネス論争」
三人の息子をスタンフォード大に入れて思うこと』
アグネス・チャン // 著
潮出版社 2020年



『できない相談』
森絵都 // 著
筑摩書房 2019年

夫の部屋は絶対掃除しない妻、仕事のストレス発散に甘納豆を手作りする姉、世話になったお礼に食事を誘っただけなのに彼女がいるからと断る男…スカッと爽快になったり、クスッと笑ったり、しみじみ共感したり、自分がどうしても譲れない日常のこだわりと抵抗を描く短編集です。



『自分で名付ける』
松田青子 // 著
集英社 2021年

結婚で女性が名前を変えることに納得がいらず、婚姻届を出さずにいた著者が妊娠し出産。結婚、自然分娩、母乳育児など、生じた違和感をすくい上げ、「母性」の一言ではくれない感情を言葉にした育児エッセイです。

30年余りに職場に子連れ出勤したことで始まったアグネス論争。「働く女性の子育て」が注目されたけれど、未だ女性たちは見えない檻に囲まれている。そんな働きながら子育てする日本の女性たちにアグネスがエールを送ります。

男性職員の育児休業100%宣言！

滋賀県では男性職員の育休取得率を令和4年度末までに40%とする目標値を設定していますが、令和2年度における取得率は27.6%でした。職員アンケートを実施したところ、育休の取得を希望する男性職員の4割が育休を取得できていないなどの課題が明らかになりました。

そのため知事が「男性職員の育児休業100%宣言」を行い、令和4年4月から希望するすべての男性職員が育児休業を取得できる職場づくりを一層進めるための取組を実施します。



参考「滋賀県 令和4年3月29日記者発表資料」

男の子育て

『おとうさんの育自書』
宮西達也 // 著



『パパいや、めろん』
海猫沢めろん // 著

『妻に言えない夫の本音』
朝日新聞「父親のモヤモヤ」取材班 // 著



『僕たちは育児のモヤモヤをもっと語っていいと思う』
常見陽平 // 著

男女共同参画絵本



『ぞうのエルマー』
デイビッド・マッキー // 文・絵
安西 徹雄 // 訳
アリス館 1986年

エルマーは、カラフルな色のぞう。ほかのぞうたちとは色が違います。それが嫌になったエルマーは、みんなと同じ色になる方法を思いつきます。

自分だけが違うと感ずることも、周囲の人にとっては案外どうでも良いことだったり、それほど気にされていなかったり…時にはうらやましいと思われていることもあります。

自分らしくいることのすばらしさを楽しく描いた絵本です。

図書・資料室 ご利用案内

- 開室時間 9:00~17:00
 - 6月の休室日 6日, 13日, 20日, 27日
 - 貸出(本・雑誌) 15冊 3週間まで
(DVD) 2本 1週間まで
 - お問い合わせ先(電話)
0748-37-3735 (図書・資料室直通)
0748-37-3751 (センター代表)
- ※新型コロナウイルスの感染拡大防止対策のため、休室日については変更になることがあります。

